

特定非営利活動法人

日本小児循環器学会 理事会 (2015.8-2017.7)

2015年度第2回理事会 議事録

日時：2016年1月11日(月祝) 15:00~18:00

場所：貸会議室プラザ八重洲北口 5階1号室

【理事会構成員】理事総数20名、出席理事19名

理事長：安河内聡

副理事長：角秀秋

理事：市川肇、市田蒔子、岩本眞理、小山耕太郎、賀藤均、鎌田政博、坂本喜三郎、白石公、
鈴木孝明、住友直方、土井庄三郎、富田英、野村裕一、檜垣高史(欠席・委任状あり)
朴仁三、三谷義英、山岸敬幸、山岸正明

監事：佐地勉、佐野俊二(欠席)、中西敏雄

庶務：深澤隆治、藤原優子

会長：小川俊一

【議事の経過の概要および議決の結果】

1. 開会

定刻に安河内理事長が議長となり、定款第27条2項の定足数を満たしている旨の報告がなされ、本理事会の開会が宣言された。続いて議長から議事録署名人として賀藤均理事、鎌田政博理事が指名され、全会一致で承認された。

2. 報告事項：

<理事長報告>

安河内理事長よりMT社から国際文献社への事務局移転について資料の通り報告がなされた。なお、国際文献社とはまずは半年の契約をし、その後年単位で契約していくこととなった。

<持ち回り理事会報告>

安河内理事長より持ち回り理事会にて審議された事項について報告がされた。

(第1号議案)Palmaz スtent安定供給に関するJPIC学会との要望書について：承認

(第2号議案)小児循環器集中治療研究会の分科会申請について：保留

・実績のない状態での申請であり保留となった。3年の実績を残したのちに再申請頂く。

(第3号議案)パリの連続テロを受けたAEPCとの交換留学に関する対応について：承認

・バーミンガム、パドア、ネッカーに派遣者を決めていたが、フランスの連続テロ事件の影響で情勢が不安定であるため、本来の留学終了期限を延長し、2016年9月までの任意の期間で留学可能とした。

(第4号議案)国際文献社との事務局委託契約について：承認

<委員会報告>

1) 総務委員会：

富田委員長より下記の通り報告がされた。

- 1) 日本小児循環器学会弔事規定の策定
 - ・現行の運用を元に、庶務委員会にて規定を策定した。
- 2) 循環器に関連した施設・術者基準について
 - ・取り纏めをおこなった。
- 3) 国際文献社との契約について
 - ・国際文献社と協議している。次の理事会までに基本骨格の話し合いを持つ。
- 4) web site の update の方針について
 - ・ページ数に応じてコストが発生するので、学会ホームページに必要以上に掲載されているファイルは今後掲載をやめたい。
 - ・現在は入口が一般・会員専用・英語と3つに分かれているが、今後は一つにして、会員のマイページと紐づくような管理にする。UMIN サーバーから国際文献社のサーバーに移す予定。また、運用面から、ページの作成を少なくし、PDF にリンクさせることで更新を簡易にする。

2) 学術委員会：

小山委員長より下記の通り報告がされた。

- 1) パリの連続テロを受けた AEPC との交換留学に関する対応について
 - ・持ち回り審議第3号議案の通り、留学終了期間を延長した。また、留学中の危機管理について学会ホームページに掲載した。2016年度については期間を変更せず、契約通り実施する予定である。
- 2) 海外関連学会における発表者推薦・決定状況
 - ・2017年イスタンブールでのワールド कांग्रेस (WCPCS) における提案、テーマなどが報告され、TOF の PR(山岸正、石川、坂本)、CHD に伴う PH の戦略(赤木、福島、高月)、Fontan 術後遠隔期(笠原、大内、先崎)を推薦した。
 - ・Joint Dinner Session の費用は折半だが、50~100万を負担する見込みである。
 - ・Working group は動き始めている所もあるが、もう少しコミュニケーションが円滑にいくように今後調整していく。

・米國小児科関連学会学術集会発表について小児科学会から推薦依頼があり、今年度の YIA 受賞者から名古屋市立大学の篠原務先生を推薦した。小児科学会での選考の結果、発表が決定した。本学会からは 2 年連続の快挙である。

3) 予防接種ガイドライン 2015 年度版に対する学会の見解

・小児科学会からの依頼で Hypoxia、心筋炎、心内膜炎の記載の変更を提案した。

3) 専門医制度委員会

試験委員会の賀藤委員長より報告がされた。

・23 名の受験者のうち、18 名を合格とした。前回とほぼ同じ合格率、平均点数であったが、問題は優しくなった印象である。23 人全員不正解が 2 問あったが、正解するべき必須知識であり、1 問については個人情報に関する常識を問う問題である。

報告に対し下記の意見がでた。

- ・相対評価で Cut off 決めるのは限界がある。素点で決めるのはどうか？
- ・優秀な人が落ちる採点ではない。専門医制度で試験合否判定は検討していく。

制度委員会の土井委員長より報告がされた。

・専門医試験口頭試験評価の再確認を行った。専門知識の質問が中心となり、倫理・家族への対応などが評価しにくい。患者の親にどのように IC するか、など診療姿勢を評価するものにしていく。

・症例要約も変化を持たせて実施する予定。

4) 移植委員会：

1) 補助人工心臓治療関連学会協議会(市川理事)

市川理事より下記の報告がされた。

・補助人工心臓は人工臓器学会などと合わせての検討で 8 月に認可、3 施設で可能。さらに 6 病院が認定された。ただし機材が高価でかつ維持費がかかる（3500 万を 2 台保持するのに 600 万の維持費が必要）。保険償還価格を値上げする必要がある。

報告に対し下記の意見がでた。

- ・今回の申請はハードルが高かったが、いずれは小児病院が使えるようにしたい。この経過はどうか？
- ・変化はない。大人の経験が重視されている。具体的に催促しないといけない。
- ・どの施設でもできるわけではない。基準を詰める必要がある。
- ・機器メンテナンス、ベルリンハートがバックアップする話はあるのか？レンタルなど、国に学会として補助を要望したい。予算、補助はどうか？小野先生・福寫先生と相談してほしい。移植とあわせて情報をあげていただきたい。

5) 保険診療・臨床試験委員会：

三浦委員長の代理で賀藤理事から報告がされた。

- 1) 治験促進のための小児肺高血圧実態調査について
 - ・対象患者が少ないため、問題になっている。国際治験のため、実態調査をおこなう。
- 2) 治験候補薬及び治験候補機器の推薦依頼について
 - ・日本医師会より依頼があり、臨床試験が終了していれば、申請してほしい。HPに掲載の方向である。本気でやらないといけない。委員会で検討し、学会のサポートを検討したい。
- 3) レミケード川崎病市販後調査に関する契約について
 - ・川崎病急性期治療のセカンドラインで承認を得た。講習を受ける必要がある。全例市販後調査は必須であり、今後この形態は増えると予想される。学会でもサポートしたい。

6) 学会雑誌編集委員会：

白石委員長より報告がされた。

- 1) 編集委員会進捗報告
 - ・現在は80%の採択率である。40代の医師に原稿を依頼したい。英文誌の発刊に向け、100万円程度の予算を計上したいと考えている。
 - ・電子投稿システムで不慣れな点はあるが、ほぼ円滑にすすんでいる。

7) 倫理委員会：山岸(敬)副委員長

山岸(敬)副委員長より報告がされた。

- ・肺高血圧治験(三浦大先生申請)については迅速審査で承認した。胎児治療(小野博先生申請)については先進的治療であり慎重な審議となり、変更を勧告した。今後も引き続き審査を行っていく。

<学術集会報告>

1) 第52回学術集会報告：

小川会長より下記の報告と提案がされた。

- ・2016年7月6日(木)から8日(土)で開催する。レジェンドレクチャーを企画している。プログラム委員会にて20のシンポジウム・パネルを決定、各90分で組んでいる。今回は会長要望演題ではなく学会要望演題とした。ガイドライン報告や、ポスターセッションの充実を図る。懇親会はしない。

・託児所を設置したい。費用は1日1名1万5000円見込み。利用者、学会側、学術集会側で負担を1/3ずつとできないか？

➤ 全会一致で託児所利用の経費分担が承認された。

・医療安全セミナーについては最終日に開催されているが、聴講しにくいという意見もある。複数日設定すると多くの人が聴講できるため、提案したい。学術集会側では枠を確保し、内容は医療安全委員会にてご検討頂きたい。

➤ 全会一致で承認された。

2) 第53回学術集会報告

坂本会長より報告がされた。

・曜日については金・土・日で行う。2017年7月7日(金)～9日(土)の予定。会場はアクトシティ浜松に決定している。6～7会場できる予定。

3. 承認事項：

1) 学術委員会：小山理事

1) 学会賞募集スケジュールが提示された。

➤ 全会一致で承認された。

2) 功労賞について

内科系1名、外科系1名を理事長、副理事長、顕彰委員会から推薦し、委員会での討議を経て理事会で決定する。できれば3月中に決定したい。

➤ 全会一致で承認された。

3) 第52回学術集会時の教育セミナーについて(教育委員会：鎌田委員長)

第7回教育セミナー(Advanced Course)、第12回教育セミナー(Basic Course)についての報告があった。第13回教育セミナー(Basic Course)では不整脈と房室弁に焦点をあてて開催予定であり、第8回教育セミナー(Advanced Course)では薬物療法の臨床試験・薬物動態について行うことが報告された。

➤ 全会一致で承認された

4) 研究委員会制度改定について

研究委員会の設置規定では原則2年だが、長期に及んでいるものがある。

それぞれの主任研究者に確認し、一度まとめてもらい、必要なら再度申請を依頼する方向で整理したい。疫学、血行動態など学術委員会で主導していきたいものもある。次回の夏の理事会までには具体的な形を示していきたい。

➤ 方向性について全会一致で承認された。

5) 第12回 Korea-Japan-China Pediatric Heart Forum について

1月22日が締め切りなのでぜひ応募をいただきたい。当学会推薦の座長、講演者は今

週中にメンバーを決めないといけないので、緊急に理事会に依頼することとなる。

6) 日本心臓病学会と日本小児循環器学会の Joint Symposium について

今年度の小循学術集会でのテーマは TOF の再手術とした。9 月の心臓病学会でのテーマが決まってない。学術委員会では、Fontan 循環の長期予後をテーマとし、座長に丹羽先生を推薦することを決定した。また演者候補として、大内先生、先崎先生、石川先生、笠原先生を推薦した。このテーマと人選で心臓病学会側に提示したい。

➤ 全会一致で承認された。

7) 学術集会テーマ案について

3~5 年のスパンで学術集会のテーマを討議し、今後のテーマとして①遠隔期予後から見た新生児心臓病の診断と治療、②体心室右室循環、③移行医療の 3 つとした。

➤ 全会一致で承認された。

2) 専門医試験委員会：賀藤理事

・第 6 期専門医試験結果について

2015 年 11 月 1 日実施の第 6 期専門医試験について、同日開催された認定委員会において 18 名を合格とした。

➤ 合格者 18 名を 2016 年 4 月 1 日付で専門医と認定することについて全会一致で承認された。

3) データベース委員会：三谷理事

・CIN 事業について

学会としてどのように関わるか検討が必要である。症例登録では難しいことが考えられ、さらに討議を進めていく。

4) 利益相反委員会：野村理事

1) COI マネージメントシステムの構築について

役員は改選ごとに COI を提出すること、提出された古い COI は規定に従って保存されることが確認された。

2) 適切な COI マネージメントについての啓発活動について

E-learning の導入は少し時期尚早であるため、学会 HP を通じての啓発を行っていくことが確認された。

5) 医療安全委員会：鈴木理事

1) 事故調査制度への対応について

医療事故調査委員会が始動し、学会としての参加協力のために医療安全委員会規則の変更が必要となり、第 2 条と第 8 条を改定することとした。

➤ 全会一致で改定が承認された。

2) 医療事故調査等に関する外部機関からの要請に対する内規について

事故調査外部委員の推薦がたびたび外部機関から依頼されるため、医療事故調査等に関する外部機関からの要請に対する内規の案を作成した。

- ・ 弁護士の確認はどうするのか。
 - ・ 学会の顧問弁護士が担当することとなるが、顧問弁護士と学会との原契約は、かなり安価な契約となっており、このような事案が発生すれば、事案ごとに別個見積もりを立てて契約することとなる。
- この方向で内規を作成することが全会一致で承認された。

3) 医療安全講習会講師について

今年の学術集会時の医療安全講習会について、医療安全調査機構常務理事の木村壮介先生に講師を依頼したい。

- 全会一致で承認された。

6) 編集委員会：白石委員長

・ 第 52 回学術集会抄録について

昨年と同様、ポケット版の編集費用は学会から拠出し、印刷費用は学術集会で負担したい。ポケット版の広告収入は学術集会の収入とする。

電子抄録は学会終了まではパスワードを設定して会員以外には公開しないが、学会終了後にはパスワードを外して掲載する。冊子抄録は実費 7 千円で販売する。

- 昨年と同様の第 52 回学術集会抄録の扱いとすることが全会一致で承認された。

4. 審議事項：

1) 総務委員会：富田理事

1) 法人格変更に関する検討について

患者の家族から入会の問い合わせがあり、議論となった。NPO 法人でも所轄庁に認証されれば会員を限定できる可能性がある。医療従事者以外の入会の是非（正会員の限定）について検討を行いたい。

- 会員限定をすることが全会一致で承認された。
- 会員限定ができるような表現に定款を変更して、3 月の理事会に提起することとなった。

2) 法人税の支払いについて（財務担当：山岸(敬)理事)

法人として法人税の支払いが必要になり予算が必要になる。年 7 万円、5 年間さかのぼって支払わないといけない。収益事業も課税の対象になる。納税手続きのため税理士への費用も発生し、きわめて荒い見積もりでは 100 万円ほど必要になる。

- 今回税金の処理を行うことが全会一致で承認された。

3) 2018 年第 54 回会長推薦者選定

議長が 2018 年開催の第 54 回総会・学術集会の会長立候補について諮ったところ、富田英理事が立候補し、2018 年 7 月 5 日（木）～7 日（土）パシフィコ横浜で開催予定である旨説明がされた。

- 全会一致で承認され、今年の評議員会・総会に富田理事を理事会から会長として推薦することが決定された。

2) 学術委員会：小山理事

1) 分科会の規則の改定について

分科会の規則について、学術委員会からの最終案と細則を提案したい。

- 全会一致で承認された。

2) 日本小児循環器集中治療研究会からの分科会申請について

学術委員会としては、会としての実績が浅いため、新しい分科会の規則に沿って再申請を求めたい。

- 全会一致で承認された。

3) 先天性心疾患心理研究会からの分科会申請について

学術委員会としては、新しい規則の基準に沿った形で再申請を求めたい。

- 全会一致で承認された。

3) データベース委員会：三谷理事

1) 小児循環器学会での現状把握と広報の取り組みの方向性について

希少疾患、社保、会員・社会還元、研究資源の提供、CHD サーベイランス、修練施設認定などに寄与するため日循の JROAD のようなシステムを構築していきたい。

- 以下のような意見が挙げられた。

- ・JROAD は試験運用が始まったばかりだが、軌道に乗れば日頃電子カルテに入力することがそのまま DB に反映されることになる。

- ・本学会でまかなえる程度の具体的な DB の形の提案を行ってほしい。

- ・現在、厚労省が動き出しているところであり、巨額なお金がかかることでもあるため、もう少し様子を見たほうが良い。

- ・準備として何が必要か、何をディスカッションするべきか、DB 委員会でまとめてもらいたい。まだわからないことも多いので、情報収集してもう一度理事会に提出してほしい。

4) 医療安全委員会：鈴木理事

1) 日本医療安全調査機構加盟依頼について

社員として加盟するため、年会費を年 10～20 万円納入する必要がある。委員会としては加盟すべき、と判断したため、承認を得たい。

- 加入することが全会一致で承認された。
 - 2) 医療安全全国共同行動への入会依頼について
一般人への啓発活動を主にしている。入会している学会が少ないようなので、委員会としては、今回は入会を見送ることを提案したい。
 - 入会を見送ることが全会一致で承認された。
- 5) 編集委員会：白石理事
- 1) 学会 50 周年誌について
電子媒体で発行し、希望者のみオンデマンド印刷を購入することにしたい。
 - 全会一致で承認された。
 - 2) 学会からの総説シリーズ発刊について
診断と治療社から、総説シリーズ (+各論) を発刊することが提案されている。発刊する方向で良いか。
 - 全会一致で承認された。

<その他>

- ・難病申請について (中西監事)

小児科学会を通じて 14 疾患 (主に不整脈) の難病の申請を厚労省に行った。日循、心電図学会、心不全学会と小循の 4 学会による共同申請である。

5. 閉会：

以上をもって本日の議事を終了し、議長から議事への協力に謝辞があり、閉会した。

以上の議事の経過および結果を明らかにするため、この議事録を作成し議長並びに議事録

署名人がこれに押印する。

2016年1月11日

議 長 安河内 聰

議事録署名人 賀藤 均

議事録署名人 鎌田 政博

(以下余白)